

パナマ文書と中国政治がハードランディングするリスク

2016年4月8日

りそな銀行 アセットマネジメント部
チーフ・マーケット・ストラテジスト 黒瀬浩一

経済のハードランディング懸念が和らいだ中国だが、今度は、政治のハードランディング懸念が生じつつある。きっかけは急に勢いがついた習近平国家主席に対する批判だ。

習近平は、毛沢民の絶対権力と鄧小平の改革開放思想を足して2で割ったリーダーだと極めて高く評価されてきた。確かに新シルクロード構想や反腐敗運動は、経済発展のキャッチアップ段階を終え、「中進国の罫」の克服が最大の課題である中国にとって、正しい方向だ。その決断と実行は、世界のどの政治家もまねができないものだと高く評価して良いだろう。ところが、風向きが変わりつつある。

3月の全人代では、檀上で後ろから習近平の肩をたたいて呼び止めるなど国家主席の権威をないがしろにする行動を王岐山がした。王岐山は、習近平とは幼少時代からの友人で、下放の経験を共有する盟友とされ、党中央規律検査委員会書記として反腐敗運動を陣頭指揮するトップ7の一人だ。また、習近平が自らを「同志」ではなく毛沢東以来の「革新」と呼ばせようとした目論見は失敗した。更に、一部メディアに全人代開催期間中に出た習近平に辞任要求する論文、国営通信社が流した「中国の最後の指導者」が「最高指導者」の誤字だとする記事、など1年前ならあり得なかったことが現実になっている。

背景はパナマ文書である可能性が高い。パナマ文書は、パナマの有力な法律事務所の顧客名簿やオフショア勘定を使った蓄財の内容などがサイバー攻撃で流出したもので、2015年にその存在が知られるようになった。中身が中身だけに、ワシントンに本部のある非営利団体である国際調査報道ジャーナリスト連合（International Consortium of Investigative Journalists）が内容を精査して、一部が4月3日に発表された。各国のメディアはトップニュースの扱いで報道した。膨大な量の完全版は5月に正式に発表される予定だ。そのパナマ文書によると、習近平の親族が巨額の不正蓄財を行っていた可能性が高いことが暴露されている。中国国内ではパナマ文書は検閲されて見られない模様だ。

今年の秋には6中全会が控えている。これは、習近平の後任の国家主席が誰になるかを方向付ける極めて大事な会議になるとされている。昨年8月には天津で爆発事故があり、習近平の後任の国家主席と目されていた共産党幹部が失脚した。このタイミングでパナマ文書がもとで習近平の権力基盤が大きく揺らぐこととなれば、中国の政治がハードランディングするリスクを意識せざるを得なくなるだろう。中国からの資本逃避は反腐敗運動の高まりと相関が高く、政治リスクが通貨変動リスクに結びつく可能性もある。政治の安定があって初めて安定した経済政策運営が可能だけに、注意が必要な情勢だ。

今のところ中国の金融市場に動揺の兆しは出ていない。しかし、パナマ文書の暴露から2日後には不適切な蓄財が暴かれたアイスランドの首相が辞任した。リスク回避のセンチメントが増大すれば、円高など資金フローがリスク資産から安全資産にシフトする可能性があることには、注意が必要だろう。

以上

- ・本資料は、お客様への情報提供を目的としたものであり、特定のお取引の勧誘を目的としたものではありません。
- ・本資料は、作成時点において信頼できるとされる各種データ等に基づいて作成されていますが、弊社はその正確性または完全性を保証するものではありません。
- ・また、本資料に記載された情報、意見および予想等は、弊社が本資料を作成した時点の判断を反映しており、今後の金融情勢、社会情勢等の変化により、予告なしに内容が変更されることがありますのであらかじめご了承下さい。
- ・本資料に関わる一切の権利はりそな銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。